

## 鳴立庵関連資料の展示替えを行いました！

2020.8.8

### 展示入れ替えにあたって

常設展示室内「文学と大磯」コーナーにて、鳴立庵関連資料の展示の入れ替えを行いました。今回は、福德観音堂の棟札、鳴立庵室の棟札、興徳殿の額のほか、硯や筆草、句集、印章を追加しました。

ガラスケース内の展示については、歴代の庵主や門人たちが俳諧を詠む姿を想起させるような展示品を選定し、配置しました。日本三大俳諧道場のひとつである鳴立庵や俳諧の世界に興味を持っていただければ幸いです。

### 1 すずり 硯と硯箱

鳴立庵で俳諧を詠む際、実際に使用されていたと考えられます。木製の硯箱に硯が収められた状態で複数見つかりました。硯箱には硯のほか、筆や墨などを収納する場合がありますため、一般的には大きく作られています。

展示している硯は石製ですが、木製のものや石と木を組み合わせたものもあります。また、巨大な硯を保管しており、それらは特別な場合に使用されていたと考えられます。



### 2 ふでくさ 筆草

はらせきじん 原昔人が15世庵主を務めた昭和初年頃、鳴立庵で渡していた筆草と考えられます。明治40年（1907）刊行の『大磯誌』には、大磯の名物として筆草が挙げられており、土産物としても人気であったと想像できます。

諸国を行脚して歌を残していたさいぎょうほうし西行法師には「西行伝説」があります。そのひとつとして、鳴立庵を訪れた筆草をもとに一首詠んだという話が伝えられています。

コウボウムギという海浜植物で、当時は大磯周辺の砂浜でも生育していました。筆先のように見える部分はようしょう葉鞘と呼ばれています。



### 3 きさらぎ句帳

昭和25年(1950)頃に記されたと考えられる、18世庵主鈴木芳如すずきほうじよによる句集です。全5巻で構成されており、第1巻は「波一」というように巻数名がつけられています。

今回展示している印章のうち、4段目の2点はいずれも「鳴立庵」の文字が彫られ、この句集では表紙や本文終わりに捺印されています。



### 4 印章

鳴立庵で代々使用された印章うち、6点を展示しています。

文字だけでなく、上から2段目のように模様を捺印するための印章も使用していたようです。印章は木製や石製など、材質も様々です。

4段目に配置した「鳴立庵」の印章は、「きさらぎ句帳」に捺印されたものです。

1段目：「円位堂」

2段目：水流と考えられる模様

3段目：左から「十八世鳴立庵」、「鳴立庵主」

4段目：左から「鳴立庵」、「鳴立庵」としずくのような模様



#### ■主な参考文献■

大磯町郷土資料館編『鳴立庵』大磯町郷土資料館 秋季企画展 図録 2019

\*この展示は、2020年度博物館実習生が行いました。2020年10月31日まで展示しています。

2020年度博物館実習生

安西 勇人

川又 万祐

増田 健宏

大磯町郷土資料館 Oiso Municipal Museum

〒255-0005 神奈川県中郡大磯町西小磯 446-1

TEL 0463(61)4700 FAX 0463(61)4660

<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/oisomuseum/>